

都市度と友人ネットワーク

□調査における問いと知見：大学生の友人ネットワーク調査（大谷 2007）

大都市大学生（大阪府和泉市の桃山学院大学）と地方都市大学生（愛媛県松山市の松山大学）とでは、学生が取り結ぶ友人ネットワークに違いはあるのだろうか？（大谷1995）

両大学の学生に対し、量的調査と事例調査を行うことで、両大学の学生の友人ネットワークの実態に顕著な差が存在すること、〈都市的ネットワーク〉ともいえる特徴が判明

□両大学の特徴からみる違い

(1)両大学の学生を集める範囲（ヒンターランド）に差がある

- 大都市大学の方が圧倒的に広い範囲から学生を集めている。
- ・桃山学院大…交通の便がよく人口も密集した大都市圏に立地
- ・松山大…市外との交通の便が悪い地方の県庁所在都市に立地

(2)両大学の新生の同高校出身者の比率が大きく異なる（表1）

- ・松山大はヒンターランドが狭く、同じ高校から多くの学生が大量に集まる傾向（表2）
- 「新生相互の面識度が非常に高い（匿名性がない）」

表1 両大学の学生の出身地構成
（1994年4月1日当時）

桃学大		
全学生	7,344	100.0%
近畿出身	5,649	76.9%
大阪府出身	3,286	44.7%
松山大		
全学生	6,533	100.0%
愛媛県出身	4,216	64.5%
松山市出身	2,739	41.9%

表2 両大学の出身高校別1994年度入学者数上位10校

桃学大 94年度入学=1,674名			松山大 94年度入学=1,562名		
高校名	実数	全体比	高校名	実数	全体比
桃山学院	38	2.3%	松山北	114	7.3%
泉北	25	1.5%	松山西	91	5.8%
和泉	24	1.4%	松山中央	88	5.6%
上宮	24	1.4%	伊予	60	4.4%
堺東	22	1.4%	松山南	60	3.8%
佐野	20	1.3%	済美	54	3.5%
初芝	19	1.1%	新田	53	3.4%
浪速	19	1.1%	東温	41	2.6%
鳳	17	1.0%	聖カタリナ	32	2.1%
清教学園	16	1.0%	宇和島南	32	2.1%

(3)両大学の大学生活の基本構造が顕著に違っている

- 大都市圏の交通の便のよさは、自宅生比率を顕著に高めている。
- ・松山大…予讃線の不便さから隣接市町村でも下宿する学生が存在している（表3）。
- 大都市圏では、長時間の電車通学によって、生活圏の拡大とともに大学生活の基本構造にも顕著な影響を与えている（表4、5）。
- ・大都市圏…自宅生活圏、バイト空間圏、学校生活圏が明確に異なっている
 - ・地方都市…各生活圏が近接（重複）している。

→以下は、大谷信介(2007)『〈都市的なもの〉の社会学』ミネルヴァ書房の「第7章 〈都市的状况〉と都市的人間関係——大都市大学生と地方都市大学生の友人ネットワークの比較」からの引用によって構成されている。

友人ネットワーク調査概要

【松山大学調査】1993年10月9日-11月20日

調査対象：松山大学学生5061名（人文学部社会学科2年生157名）

調査方法：自記式質問紙法及び集合調査

回収率：2690票（52.8%・松山大全体）：117票（74.5%・人文学部社会学科2年）

【桃山学院大学調査】1994年10月18・19日

調査対象：桃山学院大学2年生「社会調査」受講生188名

調査方法：集合調査

回収率：25票（66.5%）

【両大学事例調査】1994年

友人ネットワーク調査概要

松山大生106名、桃学大生117名の事例・聞き取り調査

友人ネットワークを測定する質問文

1) 主観的友人（学内・学外）〈数量〉：

「あなたが面識を持っている松山（桃山学院）大生を、〈知合い〉〈友人〉〈親友〉の三つに分類するとすれば、あなたが考える〈友人〉および〈親友〉はそれぞれ何人になりますか」

2) 客観的友人（学内・学外）〈数量〉：

「前期期間中（4月1日-7月31日の間）に、2回以上電話をしたことかあり、かつ、1回以上一緒にでかけたことがある学内（学外）の人は何人いましたか（でかけたとは個人的に誘い合って、食事・飲食・ドライブ・買物・映画・カラオケ・スポーツ・コンサート等にいったことと考えて下さい）」

3) 最も親しい友人（学内・学外）〈個人〉：

「松山（桃山学院）大学生の中で、あなたが現在最も親しいと思っている友人を一人だけ思い浮べて下さい」

表3 自宅一下宿比率

	自宅生	下宿生
桃学大	71.1%	28.9%
松山大	44.1%	55.8%

表4 通学交通手段

	電車	徒歩	自転車	バイク	自動車	その他・不明
桃学	70.8%	9.1%	9.2%	10.7%	-	0.2%
松山	4.4%	6.7%	47.2%	28.9%	11.9%	0.9%

表5 通学所要時間

桃学大	0分-30分	30分-60分	60分-90分	90分-120分	120分-
	21.1%	16.7%	23.8%	24.1%	4.4%
松山大	0分-10分	10分-30分	30分-60分	60分-120分	120分-
	50.4%	40%	7.7%	1.6%	0.1%

□両大学の友人ネットワークの特徴

(1)友人形成における既存ネットワークの影響

「大学生の友人の大部分は1年生のとき、しかも入学当初に決まってしまうとその後は変化しない」という驚くべき事実とともに地方都市大学において、出身学校（小・中・高）が同じという既存ネットワークの影響がきわめて強い（表6、7）。

表6 〈最も親しい人（学内）〉と自分との関係

	桃学大	松山大・ 人社2*	松山大
全体	21.1%	16.7%	23.8%
入学以前からの知合いである	16.0%	48.0%	35.3%
〔同じ高校出身者である〕	〔11.2%〕	〔38.9%〕	〔31.2%〕
入学以降初めて友人となった人である	40.0%	38.9%	42.1%
上記以外の人である	44.0%	13.1%	22.6%

表7 〈最も親しい人（学内）〉と親しくなったきっかけ

	桃学大	松山大・ 人社2*	松山大
出身小学校または中学校が一緒	0.8%	7.1%	4.7%
出身高校が一緒	11.3%	31.3%	26.1%
一般演習（基礎演習）が一緒	12.9%	5.4%	3.6%
英語のクラスが一緒	15.3%	18.8%	24.2%
ゼミが一緒	-	-	1.3%
サークルが一緒	40.3%	29.5%	22.9%
アルバイトが一緒	0.8%	0.9%	2.5%
友人に紹介されたこと	5.6%	1.8%	5.8%
その他	12.9%	5.4%	8.9%

- ・地方都市大学…既存ネットワークが入学当初から強固に存在し、その後の友人形成に大きな影響を与えている

- ・大都市大学……〈0からの出発〉の状態で、あまり既存ネットワークに影響を受けない

・回答者と最も親しい人との出身地の異質性（表8）

友人関係がランダムに形成されるなら、回答者全体の出身地構成と同じ比率になる。

- ・桃山学院大「大阪府内出身」…友人形成はランダムに近い。
- ・松山大「市内高校出身」…同質的な友人形成をしている

地方都市の排他性を象徴する結果。既存ネットワークをもたない学生にとって、もっている学生に対しては、なかなか「近づきにくい」という印象が強く、また「近づこうとしない」傾向が存在する、という無意識の排他性がある。

表8 〈最も親しい人（学内）〉と本人の同質性（出身高校所在地）

桃学大				松山大・人社2				松山大全体			
	大阪府内 （相手）	近畿圏内 （相手）	近畿圏外 （相手）		松山市内 （相手）	愛媛県内 （相手）	愛媛県外 （相手）		松山市内 （相手）	愛媛県内 （相手）	愛媛県外 （相手）
大阪府内出身	43.5%	28.3%	28.3%	松山市内出身	73.4%	12.5%	14.1%	松山市内	71.7%	13.7%	14.6%
大阪府外の 近畿内出身	34.2%	44.7%	21.1%	松山市外の愛 媛県内出身	17.4%	60.9%	21.7%	愛媛県内	21.2%	53.4%	25.4%
近畿外出身	45.9%	24.3%	29.7%	愛媛県外出身	14.3%	21.4%	64.3%	愛媛県外	20.5%	19.5%	60.0%
回答者の 出身地構成	38.2%	30.9%	30.9%	回答者の 出身地構成	55.2%	20.7%	24.1%	回答者の 出身地構成	44.9%	22.9%	32.2%

(2)学外中心型-学内中心型――選択肢の多さ

- ・大都市大学…学外中心型の友人関係
 - ・地方都市大学…学内中心型の友人関係
- 主観的友人数、客観的友人数ともに松山大学の方が学内の数が多い（表9、10、11）
- ・松山大…高校時代に親しくしていた友人は、東京や大阪の大学へ進学した等の理由によって〈分断化〉され、〈非日常的〉な関係になっている場合が数多く存在
 - ・桃山学院大…高校時代の友人の多くは大阪に居住しつづけ、〈日常的〉な関係を継続することが可能な状態にある
- 〈高校時代の友人の分断化〉〈生活圏の重複〉という事態は、地方都市大学生の学内中心型に影響を与えている。

表9 主観的友人数および学内比率

	桃学大	松山大・人社2	松山大
全体	21.1人	16.7人	23.8人
大学内平均友人数	18.5人	13.4人	14.6人
大学内平均親友数	2.6人	3.2人	3.7人
大学外平均友人数	21.0人	6.1人	10.0人
大学外平均親友数	3.9人	1.9人	2.7人
友人の学内比率	46.8%	68.7%	59.3%
親友の学内比率	40.0%	62.7%	57.8%
学内比率（総計）	45.9%	67.5%	59.0%

表10 客観的友人数

	桃学大	松山大・人社2	松山大全体
学内	3.7人	6.6人	7人
学外	5.2人	3.2人	3.8人

表11 学内と学外の最も親しい人を比較するとどちらがより親しいか

	桃学大	松山大・人社2	松山大全体
学内の最も親しい人	28.5%	58.6%	53.9%
学外の最も親しい人	71.5%	41.4%	46.1%

(3)友人とのつきあい方の差-単一送信型―多重送信型

- ・単位取得の道具的資源としての友人（表12、13）
 - ・松山大…ノートの貸し借り等が〈最も親しい人〉を中心として行われている
 - ・桃山学院大…松山大より不特定多数の友人間で行われている
- 〈単位取得の道具的手段〉として友人を使う行為自体は両大学とも変わらないが、松山大では〈最も親しい人〉がより多く〈単位取得の道具的資源〉として活用されていた

表12 講義関連の友人間の交換関係

	桃学大	松山大・人社2	松山大全体
前期試験の際、誰かにノートを貸したことがある	66.4%	70.1%	59.4%
前期試験の際、誰かにノートを借りたことがある	80.8%	86.3%	74.0%
前期期間中、誰かの出席カードを出してあげたことがある	31.2%	70.9%	60.2%
前期期間中、誰かに出席カードを出してもらったことがある	40.0%	65.0%	56.5%

表13 講義関連の最も親しい友人との交換関係

	桃学大	松山大・人社2	松山大
全体	28.5%	58.6%	53.9%
前期試験の際、最も親しい人にノートを貸した	41.0%	50.0%	51.5%
前期試験の際、最も親しい人からノートを借りた	42.6%	56.9%	54.6%
前期期間中、最も親しい人の出席カードを出したことがある	15.3%	36.5%	39.5%
前期期間中、最も親しい人に出席カードを出してもらった	12.9%	36.2%	39.1%

・友人とのつきあい方 (表14)

- ・松山大…どの項目も全般的に高い。地方都市大学生は、学内の〈最も親しい人〉と、「悩み相談」も「会話」も「遊び」もあらゆる側面で、行動を共にする傾向が強い
- 〈べったり型〉の友人関係、〈多重送信型〉ネットワーク。大学空間と、居住空間、アルバイト空間がオーバーラップしている松山市の〈都市的状況〉を反映している
- ・桃山学院大…「近況報告」「うわさ話」「研究内容の討論」等の会話を中心とした大学内でできる項目だけ
- 〈からっと型〉の友人関係、〈単一送信型〉ネットワーク。学生の生活空間が、大学空間、居住空間、アルバイト空間と明確に区別されている状況に影響を受けている。

表14 学内の最も親しい人との行動について (単位：%)

	桃学大	松山大・ 人社2	松山大全体
ドライブ	25.2	41.0	42.0
買い物	61.3	67.5	72.4
映画	18.5	31.6	29.6
カラオケ	52.0	65.8	68.5
スポーツ	29.3	39.3	45.7
コンサート等のイベント	12.2	7.7	12.2
ボーリング	29.5	47.0	50.6
ファミコン・ゲームセンター	34.4	51.3	47.0
パチンコ	9.8	19.7	21.8
麻雀	4.9	12.0	12.6
一緒に御飯を食べに行く	88.7	92.3	88.5
一緒にお酒を飲みに行く	55.3	67.5	62.4
悩みごとを相談する	67.7	72.6	65.0
時事問題を話し合う	29.3	37.6	27.7
近況報告をする	70.7	66.7	60.4
うわさ話をする	70.2	67.5	69.3
一緒にビデオ・テレビを見る	39.8	50.4	57.9
研究内容を討論する	5.7	3.4	5.3
一緒に試験勉強をする	18.0	30.8	35.9
一緒に旅行する	9.8	24.8	23.5

□まとめ：ネットワークにおける都市的状況と都市的なもの

- (1) 地方都市大学生の友人形成においては、入学以前からの既存ネットワークが大きな影響を与えているが、大都市大学生の場合はその影響が少なく、実際入学後の友人ネットワーク構成（市内出身者同士の比率が高い）に顕著な差をもたらしているという特徴。
- (2) 地方都市大学生は学内中心型、大都市大学生は学外中心型の友人ネットワークを形成している。これは、大都市大学生の方が、状況的に多くの友人づきあいの選択肢を保有しているという特徴でもあった。
- (3) 友人づきあいのスタイルは、地方都市大学生が〈狭く深く型〉〈べったり型〉〈多重送信型〉、大都市大学生が〈浅く広く型〉〈さらっと型〉〈単一送信型〉となっている。
- 大都市と地方都市で、人間が実際にとり結ぶ友人ネットワークが、明確に異なっており〈都市的ネットワーク〉というべき特徴が明確に存在することを示唆

